

令和 3 年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(共同制作支援事業)  
成果報告書

|                 |                                     |      |
|-----------------|-------------------------------------|------|
| 事業（公演）名         | 共同制作オペラ「禅」～ZEN～                     |      |
| 代表団体名           | 公益財団法人石川県音楽文化振興事業団                  |      |
| 劇場・音楽堂等の<br>名 称 | 金沢歌劇座、高崎芸術劇場                        |      |
| 実演芸術団体等の<br>名 称 | オーケストラ・アンサンブル金沢（公益財団法人石川県音楽文化振興事業団） |      |
| 内 定 額           | 29,545                              | （千円） |

## 1. 事業概要

### (1) 事業の概要

| 趣旨・目的、ニーズ等                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日本が世界に誇る偉人、鈴木大拙と西田幾多郎を取り上げて、「禅の心」をモチーフに、世界に日本文化を発信する新作オペラとして、生きるものの意味や希望・光を、芸術文化を通じて改めて問いかけることを大きなテーマとする。日本の伝統文化や日本が持ち続ける普遍性をもとに新作オペラを創り上げ、世界でも注目されている「禅」の心を多くの人々の心に響かせ、改めて日本人が遺した素晴らしい思想や文化をオペラに乗せて世界に発信する。そして地方の劇場やオーケストラが共に協力し、新しいオペラを発信することにより、国内のオペラ企画制作がさらに広がること、また、オペラを鑑賞する聴衆が共に育つことを視野に入れて、地域文化の活性化に尽力する。 |
| 実施日時・実施会場（所在地）・実施回数                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 2022 年（2 都市 2 公演）<br>（1）2022 年 1 月 23 日（日）14:00 開演 金沢歌劇座（石川県金沢市） 1 回<br>主催：（公財）金沢芸術創造財団 （公財）石川県音楽文化振興事業団<br>（2）2022 年 2 月 6 日（日） 15:00 開演 高崎芸術劇場（群馬県高崎市） 1 回<br>主催：高崎市、（公財）高崎財団                                                                                                                                   |
| 演目・曲目・幕構成、主な出演者、主なスタッフ、あらすじ等                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| オペラ「禅」～ZEN～ 鈴木大拙と西田幾多郎の生き方を通じて生きる希望を描いた作品<br>作曲：渡辺俊幸 台本：松田章一 翻訳：家田淳 プロデューサー：山田正幸<br>指揮：鈴木絵里奈 演出：三浦安浩 照明：矢口雅敏 美術：松生紘子 大道具：金沢舞台<br>舞台監督：飯田貴幸（ザ・スタッフ）<br>鈴木大拙：伊藤達人 西田幾多郎：今井俊輔 ビアトリス：コロンえりか<br>管弦楽：オーケストラ・アンサンブル金沢 他                                                                                                  |
| 事業（公演）の特徴、鑑賞者利用者拡大のための工夫点又は戦略等                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| ・大都市に頼らず、地域間で協力し合い、これからの担い手を育成し、地域文化を発信する劇場を目指す。<br>・国際的に注目を集める「禅」というテーマを取り上げることによって、国境を越え、多種多様で国際的な文化交流へと繋げる。<br>・地方のオーケストラがオペラに参加する機会が少なく、また経済的にも難しい中、劇場とオーケストラが連携してオペラを上演することで、オペラ演奏参加と地域の人々の鑑賞の機会となる。<br>・誰もがオペラ鑑賞を楽しむために、わかりやすい広報物や解説ブックを作成し、広く広報活動する。                                                       |
| 共同制作を行う劇場・音楽堂等、実演芸術団体                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 金沢歌劇座、公益財団法人金沢芸術創造財団<br>高崎芸術劇場、高崎市、公益財団法人高崎財団<br>オーケストラ・アンサンブル金沢、公益財団法人石川県音楽文化振興事業団                                                                                                                                                                                                                               |

| 共催者・協賛者・後援者・関係機関                                                                                          |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>特別協力：北國新聞社、一般財団法人石川県芸術文化協会</p> <p>後援：MRO北陸放送、石川テレビ放送、テレビ金沢、HAB北陸朝日放送、エフエム石川</p> <p>協力：劇場・音楽堂等連絡協議会</p> |

## (2) 事業の目標値、実績値

| 実施会場   | 実施日程               | 入場者・参加者数 |      |
|--------|--------------------|----------|------|
| 金沢歌劇座  | 2022 年 1 月 23 日(日) | 目標値      | 800  |
|        |                    | 実績値      | 1138 |
| 高崎芸術劇場 | 2022 年 2 月 6 日(日)  | 目標値      | 800  |
|        |                    | 実績値      | 823  |

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

| 自己評価                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>共同制作の意図や役割分担など事業が適切に組み立てられていた（と認められる）か。</p> <p>地方の劇場間が、オペラ制作にあたってお互いに意見やアイデアを出し合い、話し合いながら取り組むことができた。</p> <p>劇場が連携して協力し合い、共同で制作して制作を進行していくことで、劇場間に新たな交流が生まれた。</p> <p>各劇場で合唱団を運営し、また、稽古を重ね、新作オペラに参加することができ、地域の合唱団がプロのオーケストラやアーティストとのステージを経験することができ、稽古状況を周知し合い、演出稽古動画などを共有して確認するシステムも作り、工夫して進行することができた。</p> <p>広報活動では各劇場での広報の取り組み方を学び、地域の新聞取材やホームページ、ネット広告等を各地で取り入れることができた。制作面では、稽古スケジュールの組み立て、稽古中のコロナウイルス対策等を話し合い、現場で対応することができ、実りある有意義な交流を経て、本番へ繋げることができた。</p> <p>両劇場のスタッフが、新作オペラを台本、作曲、演出、キャスティングはじめ一から創り出すことに制作スタッフとして関わることができたことは、次の舞台制作のための大きな経験となり、共同制作の意図や役割分担など事業を組み立てることができ、次に繋がる成果となった。</p>                                             |
| <p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>地方の劇場単独では、オペラ公演を実施することが経済的にも制作規模からも困難な中で、助成を受けることによって、オペラ制作が実現できることはとても大きい効果である。</p> <p>劇場が連携して協力し合い、共同で制作して制作を進行していくことで、次の制作に繋げることができることは、この共同制作オペラのとても大きな継続性のある成果といえる。</p> <p>地方ではオペラ公演を鑑賞する機会が少ない中で、助成によって地域の方々に鑑賞の機会を提供することができることは、地域の文化拠点として活動する劇場の大きな役割を果たすことに繋がっている。</p> <p>助成によって新しい創作オペラに挑戦できることは、制作スタッフの育成面でもとても大きな影響がある。このことは、オペラによって何を発信したいか、また地域の中で劇場がどのような存在であるべきかを劇場スタッフが意識し、実際に考え、学び、各地の劇場と意見交換をする機会にもなる。また、企画を練り、実際に創作できることは、生きた芸術文化、生きた制作にスタッフ自身が携わることができる。</p> <p>オペラ制作に関わることで、他館でのオペラはじめ事業の取り組みや国内におけるアーティストの状況にも興味を持ち、知識を得て、積極的な企画制作への意欲を促すきっかけにもなり、スタッフのスキルアップにとても大きく影響している。</p> |

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

コロナウイルス感染状況から、学校へのアウトリーチが実施できなかったが、市内小中学校に向けて、オペラ公演案内を積極的に行い、事前にこの作品の解説チラシを配布し、広報を行った。また、学生発案による子ども向けの「はじめてのオペラ」という解説冊子を作成し、当日来場した小学生ほか一般の方にも配布した。

劇場のスタッフがオペラ制作に関わる中で、稽古スケジュールの管理・進行、各出演者・スタッフへの連絡、共通の広報作成等、それぞれが責任を持って担当し、新作であるが故に発生する様々な問題点に対しても、現場でその都度協議を重ね、自分たちで方向性を見出し、解決し、前進・実施することができた。

また、コロナウイルス感染拡大状況下で、ステージ上のディスタンスについて演出家と工夫・協議したり、また、オーケストラピットとの距離を考えた舞台上の対策も、意見を出し合い、安全に実施することができた。

約1年間の制作過程の中で、劇場スタッフが、出演者やスタッフと交流を深め、信頼関係も築くことができた。このことは、今後の各劇場の制作においても可能性が広がった。

また、初めてオペラ制作に関わったスタッフは、制作業務の流れを習得することができた。

広報活動については、先述の通り、地元の学生と共に SNS 等を積極的に活用。また、子ども向けに解説ブックを作成し、学校へ周知する企画（「はじめてのオペラ」）等を実現できたことは大きな成果だった。

字幕は外国人の方が理解できるように、日本語と英語両方を作成し、併設して投影した。実際にはコロナウイルスの影響により、外国人観光客の集客はなかったが、今後国内外での再演の際には、即座に活用できる仕組みを作ることができた。このことはぜひ将来の世界発信へ繋げていきたい。

青少年のための低価格チケットに関しては、「U22」チケットを設定し、22 歳以下の方には定価の半額で購入・鑑賞いただけるようにした。設定した「U22」座席数は完売となり、目標を達成することができた。また、その中でもはじめてオペラを鑑賞した方が 8 割を占めたことは、今後の若い客層の集客の後押しとなった。次の事業でも継続して取り組みたい。

地域の報道機関と協力し、合唱リハーサルはじめ多くの事前の活動に対して、取材協力を受けながら、報道を通じて地域の方々へ発信することができた。また、公演終了後も感想等の投稿記事が寄せられ、その反響の大きさを実感した。このことをきっかけに、毎年地方でもオペラ公演を楽しむことができる環境づくりに努めたい。そのほか、初めてオペラ制作に関わった各劇場のスタッフが、実際に実務を担当することで、制作のノウハウを学ぶことができ、次のオペラ実施に向けてのステップとなり、また、劇場間の交流にもなった。

地域の合唱団がプロの演奏家と共演する機会となり、地域の音楽愛好家を育て、今後のクラシック音楽をはじめとする地域の音楽ファンづくりに繋げることができた。また、若い合唱メンバー、子どもたちの出演もあり、若い層が生音楽や総合芸術の舞台に間近で触れる機会にもなった。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

コロナウイルスの状況により、合唱団やソリストの稽古開始日が遅れ、稽古期間が減少したが、そのほかのスケジュールは概ね予定通り実施することができた。

また、舞台上は感染対策を考えながらも、稽古を重ねる中で、演出家の様々なアイデアによって工夫され、新し形を創り上げることができた。

地方の劇場ならではの地域と連携した取り組みが実施でき、広報活動にもつながった。具体的には、各地域の合唱団が参加したことや、地元の学生が広報にアイデアを出し、実際に関わったことが大きな成果だった。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

コロナウイルスの影響により、稽古期間が予定より減少したことや、海外から招聘を予定していた指揮者が参加できなかった部分では、事業費に変更が生じた、それ以外は当初の計画通りに実施・進行できた。

#### (4) 創造性

##### 自己評価

我が国の実演芸術水準を向上する牽引力となることが期待できる国際的水準の公演であった（と認められる）か。

日本が世界に誇る偉人、鈴木大拙と西田幾多郎を取り上げた国際的なテーマであったこと、新作としての芸術面も含め、世界に発信できるオペラ作品となった。また、台本も翻訳を行い、今後海外の劇場にて再演する可能性を持つ世界水準のオペラとなった。

日本人による作曲と脚本で、国内の芸術的な質の高さを実感し、海外発信の新たな可能性を改めて確認した。字幕は外国人の方が理解できるように、日本語と英語の両方を作成し、併記して投影した。コロナウイルスの影響により、外国人観光客の集客はなかったが、今後国内外での再演の際には即座に活用できる仕組みを作ることができた。このことは将来の世界発信へ繋げていきたい。

特に国際的な内容であったことで、台詞やアリアに英語が用いられていたことで、翻訳家による歌手に向けた英語レッスンを重ね、質の高いシーンを届けることができた。

また、今世界に発信すべき生きることの希望や光を問いかけるテーマであることで、今後国際的に注目される内容であった。今後はこの作品を再演する機会を検討し、海外の劇場にもPRしていきたいと考えている。

そしてソリストの評価も高く、特に若手の実力ある歌手が参加したこと、代役で若手指揮者が抜擢されたことは日本オペラ界の次世代の飛躍の場となった。

## 自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながった（と認められる）か。

大都市に頼らず、地域間で協力し合い、これからの担い手を育成し、地域文化を発信する劇場・音楽堂とする。国際的にも注目を集める「禅」というテーマを採り上げることによって、国境を越え、多種多様で国際的な文化交流へと繋げる。

各地域で音楽活動を実施する合唱団がオペラに参加することで、地域文化に根差した活動が活性化され、劇場と地域の人々との交流がさらに深まることが期待できる。未来の劇場の大きな意味での支援者作りとなる。

地方のオーケストラがオペラに参加する機会が少なく、また経済的にも難しい中、劇場とオーケストラが連携してオペラを上演することで、オーケストラの魅力を発信する機会となり、地方でのオペラ鑑賞の機会となった。

さらに、劇場と地方オーケストラの活性化になり、将来的な劇場の独自性豊かな企画にも繋がった。

また、新しい劇場である高崎芸術劇場の共同制作オペラ初参加により、さらに地域間の劇場の交流や結束力が高まり、将来的にも各劇場が積極的に共同制作に参加するきっかけにもなった。